2004年度日本建築学会 技術部門設計競技

「ユビキタス･ネットワーク技術を活用した建築・都市・環境空間システムモデル」

20 世紀を通じて、日本は懸命に社会インフラとしての「ネットワーク」構築を進めてきた。鉄道網、道路網、上下水道網、エネルギー供給網、ロジスティックサービス網、放送網、電話網……今やインフラ・ネットワークの整備は、ある程度の達成をみたといえる段階にあるといえるかもしれない。だが、それで我々の社会がネットワークの恩恵を潤沢に享受できるようになったかといえば、必ずしもそういう実感はない。むしろ没個性化された乾いた世界が広がりつつあるようにすら感じられる。問題は、それぞれのネットワークがバラバラに孤立していて、ネットワーク相互の連携・調整が十分に行われていないところにあるのではないか。20 世紀型の、太いが粗い諸ネットワークを、もっと精密に精緻に結び合わせ、世界の連続性を回復することが必要なのではないか。

そうした時代にあって、近年、至るところに内蔵された無数のコンピュータが互いに呼応しながら知的に協調しあうユビキタス･コンピューティング技術への期待が高まっている。それは、情報空間と実空間とのリンクを通じて、異なるネットワークどうしを出会わせ、接続し、協調させて、新たな次元のネットワークを産み出す技術にほかならないからである。

そこで今回の技術部門設計競技では、20 世紀を通じて整備されてきたインフラ・ネットワークを縦糸とし、情報空間から紡ぎだされるユビキタス･ネットワークを横糸として織り合わされた、21 世紀にふさわしい精彩な建築・都市・環境システムモデルの提案を求めたい。もちろん、ここでいう「ネットワーク」は、情報通信ネットワークに留まるものではない。冒頭で述べた現代の日本社会で構築されているいかなる「ネットワーク」も対象となりうる。ユビキタス･ネットワーク技術を活用し、複数のネットワークを選び結び合わせることによって、それらのポテンシャルを最高に発揮させ得るような建築・都市・環境空間のシステムモデルを鮮やかに示してほしい。情報システム技術分野の方だけでなく、さまざまな分野の方々が、奮って応募されることを期待する。

＜主催＞ 日本建築学会　情報システム技術委員会

応募要領

1．課題

「ユビキタス･ネットワーク技術を活用した建築・都市・環境空間システムモデル」

2．応募資格

下記のいずれかとする。なお、同一の個人または代表者名で複数の応募をすることはできない。

①本会または本会の海外協力協定締結団体*の会員（準会員を含む）個人

②本会または本会の海外協力協定締結団体*の会員のみで構成するグループ

＊協力協定締結団体：大韓建築学会、中国建築学会、中華民国（台湾）建築学会、American Society of Civil Engineers (ASCE)、Association of Collegiate Schools of Architecture (ACSA)

3．条件

1) 提案にあたっては、従来の建築業界の枠組みにとらわれず、積極的に異業種・異分野とのコラボレーションを進め、領域横断的な提案を期待する。
2) 建築物や建築・都市空間といったハードウェアとしての提案や、建築・都市・環境の利用に関するプログラムやシステムといったソフトウェアとしての提案のどちらでもよい。
3) 提案モデルは、システムや空間の全体や部分、生活空間から宇宙空間に至るまで スケールの大きさなどにこだわる必要はなく、自由に構想されてよい。ただし、スケール の問題は重要であるから、その取り扱いには十分留意すること。
4) 提案モデルを実現するためのキーとなる技術の社会における位置付けを明確にすること。それが、既存の技術か、予測可能な将来の技術か、あるいは全くの仮想的な技術なのか、時間軸における実現見込みなどについても言及すること。

4．審査員（敬称略）

審査委員長：原　広司　（東京大学名誉教授）
特別審査員：坂村　健　（東京大学）
審　査　員：朝山秀一　（東京電機大学）
五十嵐太郎（中部大学）
江渡浩一郎（産業技術総合研究所）
加賀有津子（大阪大学）
河村　廣　（神戸大学）
仲　隆介　（京都工芸繊維大学）
中西泰人　（東京農工大学）
松岡臣人　（新エネルギー･産業技術総合開発機構）
松永直美　（レモン画翠）
本江正茂　（宮城大学）
門内輝行　（早稲田大学）
和田　章　（東京工業大学）

5．提出物（使用する言語は、日本語または英語とする）

1) 応募申込み書
下記内容を A4 判 1 枚に明記すること。書式は自由。
①提案名（提案内容を的確に表す簡潔なタイトル）
②代表者および共同制作者全員の氏名・ふりがな・会員番号・所属
③上記中の事務連絡担当者の、氏名・ふりがな・会員番号・所属・電話・FAX・E-mail アドレス

2)提案図
以下の内容を A1 判・縦使い（縦 841mm×横 594mm 厳守）1 枚に収めるものとする。紙質は自由、ただし、パネル・ボードは用いないこと。
①提案内容を的確に表す簡潔なタイトルを工夫すること。
②提案の内容を明確に示すこと。図面の種類は特に指定しないが、提案内容を説明するのに十分なものとすること。
③建築・都市と技術（ソフト、ハード）の関係を明記すること。
④注意
提出図面には、応募者の氏名・所属組織そのほか応募者が特定される情報を書かないこと。

6．提出期限

2004 年 5 月 31 日（月）
(当日の受付締切は 17:00 まで。郵送の場合当日消印有効。ただし、宅配便は不可)

7．審査方法

審査は 2 段階で行う。
1) 一次審査会（非公開）
入選候補作品を選定する。
2) 二次審査会（公開）
①入選候補者による 10 分間のプレゼンテーションと 10 分間の質疑応答を実施し、その後審議を行い各賞および佳作を決定する。なお、代理によるプレゼンテーションは認めない。
②プレゼンテーションの方法には特に制限を設けない。ただし、こちらで準備するものは PC プロジェクター（ビデオも可）のみである。
③二次審査にあたって、一次の提出内容を改良してもよいが、一次と異なる提案は認めない。
日　時：2004 年 6 月 15 日（火）　13：30～
会　場：建築会館ホール

8．表彰

最優秀賞　1 点：賞状および副賞 50 万円
優 秀 賞　3 点以内：賞状および副賞 10 万円
佳　　作　若干：賞状および副賞 5 万円
ただし、応募状況によって、最優秀賞に該当作品なしとする場合がある。

9．審査結果の公表等

入選作品は、2004 年 8 月の日本建築学会大会情報システム技術部門研究協議会の席上で表彰する。入選作品の提案図面は、講評とともに日本建築学会大会および建築会館で展示し、審査経過とともに『建築雑誌』および本会ホームページに掲載する予定。

10．その他

1) 応募図面および関係書類は返却しない。
2) 入選作品の著作権・特許権は応募者に帰属するが、『建築雑誌』・本会ホームページへの掲載や、日本建築学会編の出版物に用いる場合は、無償でその使用を認めることとする。
3) 課題に関する質問は 2004 年 3 月 1 日まで、問合せ先で受け付ける。E-mail で問い合わせられたい。回答は、2004 年 3 月 15 日以降、質問者名を伏せたうえ、本会のホームページ上で行う。

11．提出先・問合せ先

(社)日本建築学会事務局「技術部門設計競技」係
〒108-8414　東京都港区芝 5－26－20
TEL.03－3456－2057　FAX.03－3456－2058
E-mail：fushimi@aij.or.jp